

特集

元気な海を
取り戻したい

▲稚魚の放流

《特集後記》

私と（旧）竹原漁業協同組合との関わりのはじまりは、昭和50年であったと思います。

会議の目的は、組合員と一般漁業者との関係の相互理解を深めるため、私の方から申し入れ、相互の役員が出席し、会議が行われたのであります。

昭和52年に竹原地区小型船舶連合会を設立。目的は環境や資源の保護・育成、海上安全運航、会員相互の親睦であります。会員資格は船舶を有する者とし、結成時会員は約80名、翌年には130名、昭和60年代初頭には230名でありました。

平成7年に県指導で芸南漁業協同組合が設立し、当時の組合長の尽力によって、広島県栽培漁業センターが建設され、「取る漁業」から「育てる漁業」への転換が進み、大きな成果をあげています。

近年、竹原港から観光遊漁船で家族やグループでの釣りを楽しむ方が増加傾向にあり、農林水産への行政の積極的関与が求められるのではないかと思います。

宇野 武則

お知らせ

くわしくは会議録で…

掲載されている一般質問や答弁は、要約したものです。本会議の内容をくわしく知りたい方は会議録でわかります。

市の議会事務局と竹原書院図書館に備えてありますので、ご利用下さい。また、市のホームページにも掲載しています。

YouTube^{JP}

竹原市議会

検索



次回定例会市議会は、11月下旬からの予定です。
みなさん、市議会を傍聴しましょう。

編集後記

今回の定例会では「大久野島訪問税導入検討事業」が示されました。今年は戦後80年という節目の年であり、私たちは再び戦争を繰り返してはならないこと、そして、過去の歴史を風化させてはならないことを改めて胸に刻む必要があります。

大久野島は、竹原市にとって毒ガス関連遺跡という重い歴史を背負った、決して失ってはならない大切な場所です。

今回の訪問税の検討は、環境整備の促進や毒ガス関連遺跡の管理・保全、インフラの課題解消といった取組の財源を確保し、持続可能な保存につなげていくための第一歩と位置づけられています。

大久野島は竹原市に所在しながらも十分な整備が進んでいないという長年の課題を抱えてきました。

訪問税の導入がこうした課題を解決し、未来に歴史を正しく伝えていく大きな力になることを期待しています。

村上 まゆ子

「広報広聴委員」○委員長 ○副委員長

○村上まゆ子 ○今田 佳男

○蕎麦田俊夫 堀越 賢二

宇野 武則 松本 進